

投資事業評価調書(継続:再評価)

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 多田 智 (主幹兼国道係長 北村 昭二)		内 線	4362 (4374)
事業種目	道路事業	事業名		事業区間	総事業費	52億円
		国道372号道路改築事業 野村河高バイパス		社町野村～ 滝野町河高	内用地補償費	14億円
所在地		事業採択年度	着工年度	完成予 定年度	進捗率 (内用補進捗率)	約60% (100%)
社町野村～滝野町河高		H8	H8	H22	残事業費	21億円
事業の目的			事業内容			
<p>・国道372号は播磨地域と丹波地域を結ぶ幹線道路であり、阪神淡路大震災時には臨海部幹線道路の代替ルートとして機能した。</p> <p>・しかし、当該区間は幅員狭小で歩道未整備区間もあるなど、交通の隘路となっている。</p> <p>・そのため、バイパスを整備し、緊急輸送路ネットワークの形成、未改良区間の整備、自転車歩行者の安全性向上等を図り、地域活性化、産業基盤の安定に寄与する。</p>			<p>道路改築事業 L=2,290m(橋梁1橋)</p> <p>【計画幅員】6.5(17.0)m(2車線+両側歩道) 【現況幅員】4.0(4.6)m(1車線+歩道無し) 【計画交通量】10,600台/日(H42年度推計) 【現況交通量】7,943台/日(H11交通センサス) 【負担割合】国:5.5/10 県:4.5/10</p>			
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>・H16年度より隣接する社バイパスに事業着手し、社町中心市街地を迂回する外環状的道路として一体的に整備を行っている。</p> <p>・近年の厳しい財政事情の下、既存ストックの有効利用、投資効果のより一層の向上及びコスト縮減が求められており、加東大橋以西の自転車歩行者道計画見直し(両側片側)及びJR滝野跨線橋の再利用計画等を行った。(縮減額 約5.0億円)</p>					
進捗状況	<p>・H8年度から社町側から事業着手、H12年度に国道175号交差部の改良工事概成(舗装工事を除く)、H17年6月に約0.2km供用(町道を利用して約1.0km通行可能)</p> <p>・H16年度から滝野町側用地買収着手(H17年度用地買収完了予定)</p> <p>・社町内用地買収完了は2年半遅れたが、H17年度中の滝野町内用地買収完了とH18年度からの加東大橋工事を着手を予定しており、計画どおりH22年度事業完了の見込み。</p>					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性 安全・安心の確保	<p>・国道372号は、阪神淡路大震災の時に機能が麻痺した臨海部幹線道路の代替路線として見直されるとともに、緊急輸送路に位置づけられており、防災面での必要性が高い。</p> <p>・社バイパスと一体的に整備することで、社町中心市街地から大型車等の通過交通を排除し、円滑かつ安全な交通が確保できる。</p>					
地域の活性化	<p>・自転車歩行者道を整備することにより、歩行者や自転車の安全が確保される。</p> <p>・当該区間の整備により、中国縦貫自動車道や国道175号と一体となって広域的な交通ネットワークを形成する国道372号の機能強化が図られ、地域間交流を促進し、観光や産業の発展に寄与する。</p>					
(2)有効性・効率性	<p>・加東大橋について、(一)加古川を管理する姫路河川国道事務所と占用協議を進めており、H18年度からの工事着手、H22年度完成に向けた円滑な事業執行が可能である。</p> <p>・費用便益費 B/C=2.5</p>					
(3)環境適合性	<p>・大型車等の通過交通を排除することにより、沿道の生活環境が改善される。</p> <p>・植樹帯を設けて緑化に努めるとともに、歩道部に透水性舗装を施工して、環境への影響を最小限とする。</p>					
(4)優先性	<p>・当事業の実施により、国道372号の改良が完了し、緊急輸送路ネットワークの整備が進むとともに、社バイパスと併せて整備することで外環状的道路が形成でき、市街地の活性化が図られることから早期完成が望まれる。</p> <p>・H18年度から加東大橋の工事を着手予定であり、H22年度末全線供用が可能である。</p>					
再評価の結果	継続	左の理由	<p>・事業の必要性は事業採択当時と何ら変わっておらず、事業完了の見込みも立っていることから、継続して事業を実施する必要がある。</p>			